

”世知原っ子に「夢」と「笑顔」と「達成感」を”

夢をもち、心豊かで、たくましく生きる子どもを育成する



開 知

○笑顔いっぱい
○学びいっぱい
○元気いっぱい

世知原小だより第26号 平成30年9月21日 文責 久保 克則

そろそろ秋の気配がしてきました

前期後半がスタートしたと思ったら、あっという間に9月も下旬となりました。朝夕は、ずいぶんと涼しくなってきました。子どもたちの中にも、登校時に上着を羽織ってくる姿が見られるようになりました。世知原の秋は、少し早めにやってきているのかもしれない。



明日から、先週に続いての三連休となります。今回は、「秋分の日」の祝日があります。同時に、**お彼岸でもあります。すでに、20日に彼岸入りをしています。23日の「秋分の日」を中日として、26日の彼岸明けまでの1週間を指すようです。**お彼岸には、お墓参りをされたり、「おはぎ（お萩）」を食べたりされるかもしれません。春のお彼岸には「ぼたもち（牡丹餅）」を食べる習慣がありますが、どちらも同じもので、その季節の植物から名前がつけられたそうです。ただ、牡丹の花が大きいので、「ぼたもち」の方が大きめに作られるそうですが、大好物の私は食べるのに夢中で、大きさを意識したことがありません。



また、**この頃には、「中秋の名月」も見ることができます。「秋の真ん中に出る月」という意味があるそうで、別名「十五夜」とも呼ばれます。**旧暦では7～9月が夏とされていたので、8月15日頃の月を指していました。現在の新暦では、9月7日～10月8日の間で、満月が出る日としています。**今年の「十五夜」は、9月24日（月）になるそうです。**天気がよければ、季節的に空も澄んでいるので、美しい満月が見られそうです。



この「十五夜」の月見が盛んになったのは平安時代で、貴族の間に広まりました。一般に広く楽しむようになったのは江戸時代に入ってからで、収穫祭や初穂祭の意味合いが大きく、無事に収穫できる喜びを分かち合い、感謝する日でもありました。

地域によって違いはありますが、お月見にはお供えをするのがきまりで、一つ一つに意味があります。例えば、「ススキ」は白い尾花が稲穂に似ている、魔除けになるという理由から、「月見団子」は団子を月に見立てて、感謝の気持ちを表すという理由からです。他にも収穫されたばかりの農作物を供え、豊作に感謝していました。

「十五夜」が天候が悪くなくて見ることはできなかったときは、「十三夜（10月21日）」や「十日夜（11月17日）」もきれいだそうです。

そう言えば、「食欲の秋」というものもあります。いずれにしても、**これからの季節は、爽やかな天候で何をするのにも適しています。子どもたちには、いろいろなことに積極的に取り組んで、有意義な時間を過ごしてほしいと思っています。**